

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

電子部品は車と並ぶ基幹産業だ 中島規巨（なかじまのりお・村田製作所社長）

1. 新しいものは、小さくなると一気に普及する。古くはラジオに始まり、白黒やカラーのテレビ。そして携帯電話、スマートフォン。電子部品はこうした機器類のイノベーションを中から支えてきた。今も生き残る電子部品メーカーは、核となる「こだわりの技術」を持つ。当社であれば、セラミックの材料や加工。それを用いたコンデンサーや、ロームの抵抗器、TDKのインタグター。各社の武器を組み合わせ、最終製品は小型・高機能化を果たせた。
2. エレキ産業の大きな波は、概ね15年周期で来る。最近だと2000年頃のITバブルで、液晶やパソコンが広がった。15年にはLTE通信が登場し、何でもインターネットにつながるようになった。変化が起こる度に我々の市場は大きくなる。30年に来る次の波は、AI（人工知能）とクラウド、デジタルツイン。
3. もはや電子部品は、車と並んで日本の基幹産業だ。当社は総生産の65%を国内で賄い、雇用面でも重要なポジションにある。使命を果たすため、成長の歩みは止められない。（参考：「週刊東洋経済」2025年7月19日）

経営者のための理念・哲学

けじめをつけられない人や組織は同じ過ちを繰り返す 後藤俊彦（高千穂神社宮司）

1. 幕末動乱の時代を生きた人々にとって思想とは、ただ自らの意思の表明として論じるだけではなく、行動に表され、思想そのものを生きる真剣な時代であった。それは現代においても求められることである。取るべき時に取らない責任は、問題を長期化させるだけでなく、さらに様々な対立や抗争を生み、政治や組織の健全な発展を停滞させる。
2. 『論語』に「身を殺して仁を成す」という言葉がある。責任を取るということは、自らが所属する組織や共同体の円滑な発展のための一種の自己犠牲であり、広義の意味での禊（みそぎ）に当たる。この世に過（あやま）ちを犯さぬ人はいないが、けじめをつけられない人や組織は同じ過ちを繰り返すものである。
3. 我が国には、お正月とお盆という二度の国民的神祀（かみまつ）りの時がある。お盆は一年に一度、祖霊を招きお食事を共にしながら感謝と報恩の時を過ごす。終戦八十周年を迎えて、戦禍に斃（たお）れた数多（あまた）の人々の御冥福を祈り、その人々の心意に心を傾けて新日本を建設する責任が私どもにはある。

（参考：「致知」2025年10月号）

人事労務について

戦略的「休養」のススメ（企業主導で社員に促す）

1. 疲れやすい現代社会。睡眠などによる疲労解消は、あくまで個人に委ねられてきた。しかし、今は違う。パフォーマンスを上げるため、休める環境を企業が整え始めた。社員の疲れをいかにとるか。企業の「休養スキル」が問われる時代になりつつある。
2. 平日のオフィス、午後3時過ぎ。眼精疲労と軽い眠気が襲いかかり、集中力が切れてくる時間帯だ。いつもコーヒブレークでリセットするが、今日は近くのビルにある「休養室」に行こう。向かった先は、東京都千代田区にある大手町ビルの1階。ここに、企業間でシェアできる休養室がある。運営するのは三菱地所だ。周辺エリアの企業向けに休養室シェアサービス「とまり木」を展開。2023年10月に試験運用を始め、25年4月から事業化した。
3. 休養室は「休む」「癒やす」「整う」の3つの機能を整える。体調不良時はベッドで休み、疲れたらマッサージや脳の疲労を軽減できる機器などを使って体を癒やす。シェア型休養室は、従業員数が50人未満の企業の利用料は月5万円と手頃で、契約企業の6割を占めるという。

（参考：「日経ビジネス」2025年8月4日号）

古典に学ぶ

しょせんは仮の姿

1. つまり、しょせんは仮の姿であり、すべては消えてしまうのだから、栄華を求める欲や執着、自分をよく見せたいという見栄、あいつには負けたくないという囚（とら）われを捨てよ、といっているのです。
2. そうすれば、心穏やかに生きていけると。そんな悟りの境地を求め、これまで長い歴史の中で、多くの僧侶が出家し、修行に励みました。

（参考：名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」：河出書房新社）